

# 持続可能な分館活動 のために

～ 豊中市公民分館協議会 全体交流会 ～

令和6年(2024年)2月17日

アクア文化ホール

豊中市公民分館協議会 中部ブロック協議会

# 本日の中部ブロック の発表の流れ

- 1 テーマ設定「持続可能な分館活動のために」について
- 2 発表までの過程
- 3 議論した内容
- 4 今後について

# 1 テーマ設定について

R4年度 全体交流会の中部のテーマは  
「公民分館活動の担い手づくり（人材育成）について



R4年度の意見を掘り下げ、関連する課題も含めて

R5年度  
「持続可能な分館活動のために」

## 2 発表までの過程

令和4年度

- 9月3日 全体交流会  
分科会にてグループワークを実施  
テーマは公民分館活動の担い手づくりについて



- 中部B会議で全体交流会の振り返り  
⇒令和5年度もテーマを変えず、より踏み込んだ話し合いをしていくことに

令和5年度

○前年度の分科会で出た意見を分類し、検討する項目を整理



○中部Bの各公民分館や分館長が持ち帰り、現状、課題、今後のあり方などを検討



○検討した結果を持ち寄り議論・整理



○本日の全体交流会での発表

### 3 議論した内容

昨年度分科会や中部Bでの意見

- ・ 広報の配布を外注してスタッフの負担が減った
- ・ 事業の再編には労力が伴うので前例踏襲になりがちになる



今年度検討する項目の整理

**(1) 分館のスタッフの負担を減らす、  
効率化を図る**

## 昨年度分科会や中部Bでの意見

- ・分館サポーターの活用の紹介
- ・PTAの会長が分館の副分館長となっている例
- ・高校生、大学生にボランティアとして分館活動に関わってもらい、次の世代の担い手に
- ・役員自体が楽しめる行事を行い、その楽しさを友人などに紹介し担い手を広げる



## 今年度検討する項目の整理

# (2) 担い手を増やす・他の地域団体との連携

## 昨年度分科会や中部Bでの意見

- ・分館でモルック（アウトドアスポーツ）を行ったが、日頃分館行事で見かけない親子が楽しそうにしていた
- ・町会がLINEやSNSを使い行事の呼びかけを行ったら、日頃関わりのない人が参加表明を入れてくれた
- ・コロナで影響もあるが、分館の存在を知らない人が多い



## 今年度検討する項目の整理

**（３）楽しく分館事業に参加し、情報発信等によってつながり、ひろがる**



**（１）分館のスタッフの負担を減らす、  
効率化を図る**

## (1) ①業務の外注、応援依頼（広報、文化祭、体育祭等）について

今年度に議論・確認した内容

- ・従来の体育祭に育成グループの体験会を取り入れ、従来の体育祭スタッフの負担を減らし、育成グループ会員獲得を図ることを検討
- ・おやじの会やPTAの若手にパネル設置、テント設営などの力仕事を依頼。旧式のテント等の更新。
- ・広報誌の印刷・配布、行事プログラムの印刷等の外注。

## (1) ②分館事業の再編・効率化について

今年度に議論・確認した内容

- ・ 行事を再編するには、新たな労力とリスクが伴うので、前例踏襲になりがち。コロナ対応のような外因があると変化させやすい（行事の時間短縮等）
- ・ 午前に学校の運動会、同日の午後に地域の体育祭を検討
- ・ 今の時代に合ったSDGs等の要素も取り入れながら既存事業の再検討を
- ・ 社会見学を平日のバスから土日に近場の歴史・文化を探訪する催しに変え、参加者の年代層が広がった。

## (2) 担い手を増やす・ 他の地域団体との連携

## (2) ①分館サポーター等の柔軟なスタッフ体制について

今年度に議論・確認した内容

- ・子どものためなど楽しいところだけまず体験してもらうことから、自分が心地よい範囲で参画できる環境があることをアピールする
- ・事業実施の企画段階から内容を発信し、ボランティアを公募する
- ・ただし、当日受付のサポーターの場合最低限必要なスタッフ数を確保できるかの見極めが難しい
- ・年間を通じてスタッフを募集し、イベント開催会場で申込受付場所をつくる（その時の気持ちを逃さない）

## (2) ②PTA等の地域団体との連携について

今年度に議論・確認した内容

- ・ 校区内の他の地域団体とラウンドテーブル的な催しを企画し、行事のテーブル化を図って連携の糸口を見出す
- ・ 地域自治組織の設立も有効かも知れないがリーダー不足や団体間の調整も難しい
- ・ 地域の商店街、企業等から協賛金をもらうだけではなく、持続可能な地域づくりの実施を通じて懇親を深める
- ・ 高齢者対象事業の校区社協との共催など
- ・ 地域内に地域の安全・安心を推進する集まりや学校評議員会があるが担い手の拡大につながりにくい

## (2) ③高校生や大学生、定年後の人材等のボランティアとしての公民分館事業への参加について

今年度に議論・確認した内容

- ・地域の祭り等で同窓会スペースを広報し、若者が旧友との交流を再開し、地域活動に触れる機会とする
- ・校区の近隣に高校がある地域は連携が取りやすいが、ない地域は高校との連携が取りにくい
- ・市民公益活動支援センター等を通じてボランティアのマッチングを依頼するののも一つの方法
- ・地元の中学校校区で活動している高校生・大学生メインのボランティアグループに行事の協力をお願いしている

## (2) ④特定のスタッフで固まらず、企画側も参加者も楽しく参加できる活動にするには

今年度に議論・確認した内容

- ・ 今までのやり方を変えるのにも労力とリスクが伴い、なかなか手をつけられていない
- ・ 一度、新しく企画を任せたら、今までのやり方と違った手法でもまずやってみてもらう
- ・ 分館の行事の計画などを早めにSNSなども活用して発信し多様な人が参加する機会を増やす
- ・ 事業の振り返りやアンケート調査を実施し、次回以降の企画に活かしていく



**（３）楽しく分館事業に参加し、情報発信等によってつながり、ひろがる**

### (3) ①親子で参加できる行事、楽しく参加できる行事を増やす

今年度に議論・確認した内容

- ・各分館とも基本的には、子どもや親子をターゲットにした出し物を体育祭や文化祭等の中で行っている
- ・夏まつりで新たに子ども花火（手持ち）を安全対策を講じたうえで実施し、好評であった。
- ・豊中天文協会の協力を得て、PTAと共催で星空観察会を行ったが、好評であった
- ・企画の公募をおこない新しいアイデアを募ってみてはどうか

## (3) ②情報発信・IT化

今年度に議論・確認した内容

- ・ 中部ブロックでホームページを作って分館事業の周知等を行っているのは、10分館中2分館
- ・ デジタル技術による情報発信は今後一層必要となり、PCの導入等のIT環境の整備は一定交付金で賄うことができるが、ノウハウをもった人材の確保が多くの分館での課題となっている
- ・ 小学校のPTAに協力してもらい、分館行事もLINEで周知してもらうことができれば
- ・ 市民公益活動支援センターの活用（SNSなどインターネットを使って広報や情報共有の相談）

### (3) ③分館の存在のアピール

今年度に議論・確認した内容

- ・ 少子高齢化社会、核家族化、共稼ぎ・ひとり親世帯の増加などを背景とした地域のつながりの希薄化が言われて久しいが、社協などの地域団体と協力しながら「安全・安心・楽しみ」をアピールできる行事を開催しながら地域のつながりと参加者意識を醸成していきたい
- ・ 公民分館の存在を知らない人が増えていると思われ、分館の意義を転入者への広報や、学校行事での説明など未着手の部分で進めていくことが必要

## (4) その他

今年度に議論・確認した内容

- ・ 公民分館の育成グループについて、公民分館行事への協力の方法や公民分館の育成グループとしてのあり方の再確認が必要ではないか
- ・ 小学校区再編の動きが南部以外にも広がりつつある中で、地域コミュニティがどう対応していくか（南部の動きが今後の参考になる）

# 4 今後について

- ・他のブロックとの取り組み内容を共有し、取り入れられる事例を取り入れていく
- ・今回議論した内容の中から次年度以降にできるものから試行的に取り組んでいく

ご清聴ありがとうございました